

我が国におけるストリートダンス文化の現状と今後の展開についての考察

Consideration of current situation and future development of street dance culture in Japan

1K09B150

中村 裕

指導教員 主査 松岡宏高 先生

副査 杉山千鶴 先生

【目的】

本研究では、我が国におけるダンス文化の現状を理解し、今後、更にストリートダンス文化が発展する可能性について考察を行う。

我が国のヒップホップ文化は、1970年代より始まり、現在に至るまでに、急速に文化が根付いてきた。その中でも、ヒップホップ文化を形成する、1つの大きな要素である、ダンスにおいては、昨年度から文部科学省の学習指導により、小学校、中学校、高等学校の保健体育の教材として取り入れられたことにより、非常に注目を浴びるようになった。また、我が国のストリートダンス人口は400万人を超え、ストリートダンスが一過性の流行から、現代文化に浸透してきている傾向がみられる。教育の現場にダンスが取り入れられたことは、ダンス文化における一つの転機と言える。

一方で、風営法によって、ダンスをとまなう営業には都道府県公安委員会の許可が必要で、営業時間も午前0時または1時までには制限される。

ストリートダンスが教育に取り入れられたことに対し、風営法により、ダンスは規制対象に置かれている。ストリートダンスの価値が高まる一方で、規制対象にあるのは、社会的にずれが生じている。表現の場とダンス人口のバランスが崩れ、ダンス文化の萎縮が懸念される。

よって、本研究では、我が国におけるストリートダンサーからみたヒップホップ文化とストリートダンスの現状、またこれらと風営法の関係性について明らかにする。そして、今後の我が国におけるストリートダンス文化の在り方について考察する。

【方法】

本研究では、自身がストリートダンサーであるという認識を持ち、活動している者を対象にインタビューを行った。半構造化インタビュー法を用いて、1対1の訪問面接法で行った。分析方法は、特定の共通する語句を挙げ、解を導き出す方法を採用し、ストリートダンスの現状を考慮した上で、ストリートダンスの今後の展開について考察を行った。

【結果】

ストリートダンスを取り巻く現状を上げ、実際にストリートダンサーと自覚を持ち活動している者、6人にインタビューを行った結果、共通する語句が挙げられた。

①ストリートダンスの実施動機、魅力について

回答者全員に共通して、「自己表現」の手段として、魅力に感じているという結果が得られた。

②ストリートダンスの浸透状況について

「一般人」という言葉が多く挙げられた。一般人からすると、ヒップホップやストリートダンス、現在のクラブシーンの理解度は

低く、現在に至るまでの、クラブでの薬物売買、暴行事件などの犯罪から出来上がった先入観で、負のイメージを持つ人が多いと認識している傾向が確認された。また、回答者全員がストリートダンサーの社会的地位が低いと回答した。

③ダンスの必修化と風営法について

教育に取り入れられたダンスについては、回答者全員が、良い取り組みであると回答した。風営法による取り締まりについて、治安を守るため、規制することは重要であるという回答が多かったが、ダンスに関係することに規制を置く必要性は無いと考える人が多い。回答者6人中4人が、ダンスを「本気でやっている人」、「純粋に好きな人」、「真面目に真剣に取り組んでいる人」にとって、ストリートダンサーのイメージが悪く持たれていることに疑問を抱いていた。そして、「チャラチャラ」したクラブ、イベントという表現をしていたことから、現在のクラブシーンは二極化している。

【考察】

ストリートダンス文化の現状としては、文化的にも運動としても、高い価値があると判断され、近年、急激に認知度が高まってきている。今後更に、ストリートダンス文化が発展する可能性として、「自己表現」手段としての魅力を人々に伝える動きが重要だろうと考える。

実際にはメディアなどで取り上げられるのは、わずかな部分のみであり、その根底にあるストリート文化に対する概念は、まだまだ根付いていないことが考えられる。

また、クラブシーンにおいては、二極化している傾向があることから、真剣にダンス活動を行う者のイメージを悪化させていると考えられる。一般化されるためには、ストリートダンス文化の認知度を高めることが必要となると考える。

ストリートダンスに限らず、ダンスという文化の価値が定着しつつある中、これからもストリートダンスが人々からの人気を獲得し、更なる発展を遂げるには、ストリートダンスの根底にある文化を理解し、我が国の社会的背景を考慮した上で、そのイメージを良くしていくための動きが求められるだろう。我が国においては、その第一歩として、人々がスポーツとして、ストリートダンスを認識した時、ようやく文化として真に定着すると考える。

